

20代 係員クラス

関係部署との連絡調整や上司の指示に従い業務に携わります。



平成29年度入省／行政
木曽川下流河川事務所 占用調整課
上野 史織

「人のためになる仕事をずっと続けたい」という思いと、説明会での職員の方々の雰囲気の良さから、整備局を志望しました。

現在は河川管理業務を担当しています。洪水等の自然災害の被害から地域住民の皆様の安全を守るための業務なので、責任を痛感する場面も多いですが、その分大きなやりがいを感じます。

職場の先輩方は優しい方ばかりで、とても穏やかな雰囲気の中で仕事ができています。最近は女性職員も増えているため、仕事だけでなく私生活においても色々相談することができ、とても働きやすいです。男女問わず活躍できる活気ある職場だと感じています。

今後も様々な分野の業務を幅広く経験し、中部地域の発展に少しでも貢献できるよう、精一杯努力していきたいです。みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています！



平成28年度入省／農業農村工学
河川部河川管理課
河瀬 真希

私は、インフラ整備によって多くの人の命を守る仕事であることに魅力を感じ、入省を志望しました。様々な業務を経験する中で、災害から人の命を守るだけでなく、人々の生活を支え、地域の活性化に貢献できることも実感し、とてもやりがいを感じています。

入省したばかりの頃は、専門的な知識が足りていないのではないかと不安でしたが、若手職員向けの研修や勉強会、上司や先輩のサポートのおかげで、今では不安を感じることなく仕事できています。まだまだ分からないことばかりですが、周りには女性職員や若手職員も多く、相談しやすい環境なのでいつも助けてもらっています。

今後はもっと経験を積んで、地域の安心・安全や活性化に、より一層貢献できるよう努力していきたいと思っています。

30代 係長クラス

資料作成や関係部署との連絡調整といった具体的な業務の責任者となります。部下への指導も重要な役割です。



平成23年度入省／行政
静岡県道事務所 管理第一課
係長
清川 源太

県を跨ぐ広域的な道路の整備等、大規模なインフラ整備に携わってみたいという思いから、中部地整を希望しました。

現在の私の主な仕事は道路管理業務で、道路法に基づく手続きや他の道路管理者との協議、また台風や大雪の際には災害を防ぐため、事前に道路の通行止めを行う等、防災に関する仕事を行っています。道路管理は初めてなので分からないことばかりで大変なこともあります。新たな知識や経験を得られるため、充実した毎日を過ごしています。また、道路を利用する方からの問い合わせや要望をいただくことが多く、改めて道路が地域の皆様の生活の一部になっていることを感じるとともに、自分の仕事がある安心・安全な生活を守ることに役立っていることを実感し、非常にやりがいのある仕事だと感じています。

今後も、様々な分野の仕事に携わり、多くの知識と経験を身につけて、地域の方々の安心・安全な暮らしを守るために取り組んでいきたいと思っています。



平成28年度入省／土木
三重河川国道事務所 調査課
係長
関谷 雄大

中部地方整備局には多くの魅力があります。中でも「事業規模や社会貢献の大きさ」は、他の職場ではなかなか感じることでない最大級の魅力だと思っています。

私は現在、三重県を流れる鈴鹿川、雲出川、櫛田川、宮川の河川整備の計画を立てたり、見直したりする業務に携わっています。例えば、気候変動の影響により、降雨量が増大し、海面水位が上昇すると予測されていますが、そのような状況でも、効率よく被害を最小化できるような整備メニューを考えています。自分の考えたことが、地域の安心・安心につながることは、大きなやりがいとなっています。

中部地方整備局の仕事の根本には常に「地域のために」という精神があります。また、上司の導きや同年代の係長との連携、部下の協力により、チームプレイで明るく前向きに日々取り組める仕事環境があります。

私は、今後も「地域のために」の精神で仕事に取り組み、自分も成長していきたいと考えています。

40代 管理職クラス

課の責任者として、課全体のマネジメントを行います。



平成9年度入省／行政
北勢国道事務所 用地第二課
課長
高橋 里美

「人をつなぐ」「人とつながる」仕事がしたいという思いで入局しました。現在所属している用地第二課は東海環状自動車道の用地取得業務を行っています。その内容は「土地の測量」「物件の調査」「補償金の算定」「用地交渉」「契約の締結」「登記」と多岐にわたり、早いもので20年以上用地取得業務に携わっていますが、今でも新しいことの連続で刺激的な毎日を過ごしています。

公共事業といえども個人の貴重な財産をお譲りいただくので、皆様のご理解、ご協力があってこそその仕事です。地域や自治体の方などたくさんの人に支えられ、信頼関係を築きながら仕事をさせていただくことに面白さを感じています。自分が用地取得業務に携わった道路が開通し、地域の方から感謝の言葉をいただいた時は、心が熱くなります。この心に残る仕事にあなたも「つながって」みませんか？



平成8年度入省／土木
三河港湾事務所 企画調整課
課長
河合 尚男

就職する際はどちらかというと「港湾」というより「みなと」という人が集まる賑わいのイメージを持って就職しました。その漠然としたイメージを持ってスタートして20年余り経ちます。これまで、設計や工事発注などの事業実施にかかる業務や、本省や研究所の勤務における専門性の高い業務など、多様な経験を通じ自分の考え方と一致した時の満足感や、そうでない場合の戸惑いを繰り返してきました。ただ、そのギャップを埋める事ができる職場であり充実感は満載です。

現在は、愛知県にある三河港と衣浦港の新規事業の発掘に携わり、「港湾」が日本経済の中で欠かせないインフラである事を改めて実感しています。今でも「港湾」という言葉一つとっても仕事の幅が非常に広い事から、日々興味を失う事はありません。

これから就職を考える皆さん、人の集まる「みなと」であり、経済・生活を支える「港湾」というフィールドで仕事ができます。

50代 幹部クラス

局や事務所の責任者として組織の意思決定や指揮・命令を行います。



平成2年度入省／行政
総務部
人事計画官
前田 幸則

皆さんが就職先を選ぶときに重視することは何でしょうか。私の場合は、「仕事内容が魅力的か」でした。人々のため、地域のために働きたい、そしてスケールの大きな仕事がしたいという思いから、地方整備局を志望しました。整備局の仕事は、河川や道路など私たちの暮らしを支えるとともに未来の中部を育む分野であることに魅力を感じ、入局を決めました。

仕事のやりがいは、地域の方々とコミュニケーションを重ね、安全・安心な生活のため、豊かで円滑な経済のためにみんなが納得できるものをつくることだと感じています。多くの人と話し合いを重ね、作り上げていくことは何事にも代えがたいこの仕事ならではのやりがいではないかと思っています。

今も仕事で悩むことがありますが、30数年前の志望動機を思い出しながら一つずつ自分にできることをしっかりと行っていきたいと思っています。

皆さんもご自身が重視することを大切にして下さい。



昭和61年度入省／土木
企画部
事業調整官
竹下 康則

国土交通省の役割の一つに、国民や企業などの基本的な社会経済活動の基盤を整備する（いわゆる、社会資本整備）と言う仕事があります。皆さんが入局した後は、いろいろな基盤を整備する仕事に携わることが出来ます。

私は、入局以来、国の基盤整備（社会資本整備）の最前線で日々やり甲斐を感じながら仕事をしています。例えば、中部地方の10年後の姿を描く為の計画の立案、道路関連の国家的プロジェクトや中部地方整備局管内の国道バイパスの整備などの社会経済活動を整える仕事などです。

皆さんも、整備局に入局すれば、やり甲斐の有る仕事があります。是非、一緒に働きましょう。